

真っ赤なつなぎと美味しいご飯

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校

三年 佐藤 愛梨

「農作業が好きなんて、えらいねえ。」

「私は母に言われています。母の実家に行く時の楽しみの一つが、農作業をすることです。私は、田植えや稲刈りなどの作業をするのが好きです。」

母の実家は山間部にあります。遊びに行く時は祖父母に会いたい気持ちも、もちろんで

すか、何より田畑の仕事がしたくてたまらな
いのです。私は何かを植えたり、収穫したり
草取りをするのが好きです。そのような仕事
がしたくて来たのに、祖母から
「今日は何もすることがないよ。ごめんね。」
と言われると、とても残念な気持ちになります。
す。田畑の仕事がある時は、祖母から長靴を
借りて、喜んで付いて行きます。母と妹は家
で待っています。私だけ祖父母と一緒に行く
のです。

以前、祖父母は自分の家の田植えや稲刈りをしていた。しかし、高齢になったので数年前より、米作りは他へ委託しています。

私が小学生の頃は、まだ祖父母が田仕事をしていたので、私は自分からすすんで手伝いをしていた。裸足になって手植えで苗を植える私を、祖父母はとても喜んでくれました。私も少しでもお手伝いができて良かったと感じました。でも、もうその手伝いもできなくなってしまうので残念です。父の実家

は海岸近くがあり、漁業を営んでいるので、私が手伝える農作業は一つもありません。

母は、私が田仕事をしたいというので、私の同級生の家に、田植えと稲刈りの手伝いをさせてもらいたいとお願ひに行きました。そして私は自分の名前入りの真っ赤なつなぎを着て手伝いに行きました。自分から手伝いたくって行ったので褒められました。そこでは、殆んど作業が機械によって進められたので少し物足りませんが、手作業のところ

と箱洗いななどを手伝いました。そのお宅から秋に新米をいただきました。こちらの方からお願ひして手伝わせてもらって、なのに、却って申し訳なかつたと思ひました。有難く頂戴し、早速炊いて食べてみると、新米はともつやつやと光つていて、美味しかつたです。

その後も、県内各地の農業体験に申し込みをし、家族で参加してきました。妙高市では稲刈り、長岡市では田植えと稲刈り、柏崎市では「田んぼの学校」に入校し、一年を通し

て米作りを学びました。田んぼの先生より、田植えの仕方、草の抜き方、稲の刈り方を教ゆりました。そして、秋には自分達で育てた米で収穫祭をして、参加者の皆で美味しくいただきました。

小学生の頃は学校田にて、春に田植えと草取り、秋には稲刈りを体験しました。私は人一倍、作業を頑張りました。頑張りが過ぎたせいか、足を田のぬかるみにとられて転倒し、手をついた拍子に激痛が走りました。そして

放課後に母と病院へ行き、レントゲンを撮り
 ました。幸いなことに大事には至らなかつた
 ので良かったのですが、母からは何事も程々
 にと言われしました。私は中途半端なことは嫌
 いなので、やるからには何でも一生懸命にや
 りたいのです。学校田で収穫した米は、皆で
 餅つきをして食べました。美味しかったです。
 私は、田の一枚分を一人で手植えをし、稲
 刈りも手刈りでした。という気持ちがあります。
 す。いつか一人で全部やってみたいです。

今の若い世代は農業に興味がないようです。
 しかし、後継者がいなくては日本の農業は廃
 れていく一方です。若い人も農業に興味を持
 つように、子供の頃から食育などで教育をし
 ていくと良いのではないかと思います。
 私はこれから、真っ赤なつなぎを着て、
 農作業をしていきます。春は田植えをし、
 そして秋には豊かに実った稲を収穫し、美味
 しいご飯を食べたいです。今年も新米を楽し
 めたいと思っています。